

地域関連課題等研究支援費に係る研究成果報告(ホームページ用)

	(所 属)	(職 名)	(氏 名)
研究 代表者	女性生涯医科学	講師(学内)	大久保 智治
研究組織 の体制	女性生涯医科学 女性生涯医科学 女性生涯医科学	講師(学内) 助教 病院助教	大久保 智治 安尾 忠浩 藤澤 秀年
研究の 名称	ネットワーク回線を用いた胎児超音波遠隔診断システムの構築		
研究のキーワード	胎児, 超音波断層法, 遠隔診断		
研究の 概要	京都府北部、南部遠隔地の産科施設において胎児異常が疑われた症例の超音波4次元画像をネットワーク回線を用いて送受信し、府立医大附属病院産婦人科において胎児診断やセカンドオピニオンの提供を行うことによって胎児超音波遠隔診断システムを構築する。これにより遠隔地の妊婦さんの移動に伴う負担や産科医療従事者の負担を軽減するとともに、超音波診断技術の向上により地域全体の周産期医療のレベルアップに貢献する。		

研究の背景	<p>妊婦健診において胎児心および中枢神経系の奇形を含めた胎児の異常の有無を超音波断層法を用いてスクリーニングすることは今や周産期医療では必須の項目となっており、正確な出生前診断が新生児の予後を直接左右する。京都府下の年間分娩数22,000件のうち約半数の10,000件が京都市外の地域で扱われるが、北部地域をはじめとして郡部には産科医が少なく三次施設もない。そのため、現地の健診で胎児異常が疑われた場合、妊婦を府立医大に紹介受診してもらって診断をすることになる。遠方の移動は特に安静を要する異常妊婦にとっては負担が大きかった。</p>
研究手法	<p>京都府内の遠隔地における一次、二次産科施設において、胎児異常が疑われた症例の胎児超音波画像を専用回線を用いて京都府立医科大学附属病院産婦人科に送信する。大学の専門医は受信した画像を解析し診断を得る。診断結果をセカンドオピニオンとして現地の主治医に提供し、主治医はこれを参考にして妊婦とともにその後の方針を決定する。さらに、産科救急をはじめとする緊急時に搬送前の診断を行うことにより、今まで以上に迅速かつ的確な対応ができる合理的な母体搬送システムを構築する。</p>
研究の進捗状況と成果	<p>京都府立医科大学附属病院産婦人科と地域の二次産科施設である京都府立与謝の海病院、田辺中央病院とを京都府デジタル疎水ネットワークを介して回線接続、契約締結し、平成21年11月27日から本事業を開始した。平成22年3月10日現在17例の症例が紹介された。大学の専門医は受信したデータを画像解析装置を用いて解析し診断、診断結果をセカンドオピニオンとして現地の主治医に提供している。</p>
地域への研究成果の還元状況	<p>平成22年3月10日現在17例の症例が紹介され、解析し診断、診断結果をセカンドオピニオンとして現地の主治医に提供している。</p>

<p>今後の期待</p>	<p>平成22年3月末日までに市立福知山市民病院、綾部市立病院とも事業開始予定である。また国立病院機構舞鶴医療センターとも連携予定である(時期未定)。さらにその他の病院とも連携する予定があり当システム網をより充実したものにすることが期待される。</p>
<p>研究発表</p>	<p>平成22年7月日本周産期・新生児学会において本事業に関して発表予定。</p> <p>「京都府における胎児超音波遠隔診断の構築」:大久保智治</p> <p>「STICを用いた胎児超音波遠隔診断システムの胎児心出生前診断の有用性」:藤澤秀年</p>

